

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成16年 8月30日)

事業コード	H16-建-継-16			区 分	国庫補助・ 県単独
事業名	ふるさとづくり推進事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	道路改築事業(バイパス)			課室班名	道路建設課 (tel) 2486
路線名等	(主)湯沢栗駒公園線			担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	皆瀬村 五才沼			担当者名	主幹(兼)班長 小田 修
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	4	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備	
	目標コード	2	施策目標名	県道改良率	

1. 事業の概要

事業期間	H8 ~ H17 (10年)	総事業費	15 億円	国庫補助率	-		
事業規模	延長L = 1,140m 幅員W = 8.5m (1.25 - 6.0 - 1.25)						
事業の立案に至る背景	<p>当該路線は、国道13号湯沢市を起点とし国道398号皆瀬村を終点とする幹線道路であり、栗駒国立公園、泥湯温泉等の観光拠点へのアクセス道路であるとともに、沿線集落の日常生活を支える重要な路線である。</p> <p>当該区間は緊急輸送道路であり、地域住民にとって欠かせない道路であるにもかかわらず、幅員狭小、急勾配、急カーブのため道路利用者にとって危険な状態となっている。</p> <p>円滑な交通の確保と地域住民の安全性確保を早急に図るべく、当該区間を整備するものである。</p>						
事業目的	<p>交通支障区間の解消 縦断勾配 1.1%</p> <p>緊急輸送道路ネットワーク(道路の防災対策・危機管理の充実) 第二次緊急輸送道路</p>						
事業費内訳	(単位:千円)						
事業内容		全体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降	
	事業費	1,528,000	1,286,000	122,000	120,000	0	
	経費内訳	工事費	1,334,318	1,102,121	115,645	116,552	0
		用補費	34,624	34,624	0	0	0
		その他	159,058	149,255	6,355	3,448	0
	財源内訳	国庫補助	0	0	0	0	0
		県債	1,374,000	1,157,000	109,000	108,000	0
その他		0	0	0	0	0	
事業内容		改良工 橋梁工 用地補償	改良工 橋梁工 舗装工	改良工 舗装工			
事業推進上の課題	特になし						
上位計画での位置付け	総合計画における施策「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業						
関連プロジェクト等							
事業を取り巻く情勢の変化	幅員狭小、急勾配、急カーブのため、道路利用者にとって危険な状態が続いている。						
事業効果把握の手法及び効果	指標名	路線冬期幅員確保率		データ等の出典	道路現況調書		
	指標の種類	成果指標 (業績指標)		把握の時期	平成16年 7月		
	指標式	路線確保済延長/実延長					
	目標値 a	16.0%					
	実績値 b	11.6%					
	達成率 b/a	72.5%					

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	道路構造が最小曲線半径40m、最急勾配11%となっており道路利用者の安全確保のため、早急に整備する必要がある。 第二次緊急輸送道路であり、他に機能が競合する路線は存在しない。	10 点
緊 急 性	道路交通量調査の動向では、交通量が増加傾向にあるうえ、狭隘で縦断が急勾配であることから、道路交通の安全性に支障や危険を伴っている。	7 点
有 効 性	地域づくりの支援 道路交通の安全確保（道路の防災対策） 車道5.5m 6.0m 路肩0.75m 1.25m 縦断勾配11% 緊急輸送道路の指定路線であり、災害時のアクセス道路として防災計画上の重要路線である。	23 点
効 率 性	事業の費用便益比は4.27であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 17.7億円 ・総便益の現在価値 75.4億円	18 点
熟 度	用地買収は既に完了しており、事業も平成17年度で完了予定となっている。	20 点
判 定	ランク（ ○ ） 用地買収が終了しており、事業も最終年度であることから、引き続き事業を実施すべきである。	78 点
総合評価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

別表7 (21)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 () 継続箇所 () 事業コード (H16-建-継-16) 箇所名 (皆瀬村 五才沼)

適用事業名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員 < 5.5m ・最小半径 < 100m ・最急勾配 > 5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	(8)	8		
		2箇所	6			
		1箇所	4			
		0箇所以上	0			
		計	15			
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 1.0 ・現道の旅行速度 30km/h ・現道の事故率 50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当	7	2		
		4件該当	6			
		3件該当	5			
		2件該当	4			
1件該当		(2)				
該当項目なし		0				
計		15				
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	(4)	4		
		なし	0			
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	0		
		位置づけなし	(0)			
	交通量	増加している	(3)	3		
		増加していない	0			
	特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり	5	0		
なし		(0)				
計		15				
有効性	道路の位置づけ					
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	0		
		該当しない	(0)			
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	(7)	7		
		該当しない	0			
	地域防災計画画重要な道路	該当する	(7)	7		
		該当しない	0			
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い	(9)	9		
		低下傾向	6			
		必要性が低い	3			
計	30	23				
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)	1.0以上	(5)	5	B/C = 4.27	
		0.5以上 ~ 1.0未満	3			
		0.5未満	0			
	計画交通量	1,000台/日以上	5	3		
		500台/日以上 ~ 1,000台日/未満	4			
		300台/日以上 ~ 500台日/未満	(3)			
		300台/日未満	0			
	コスト縮減	あり	(5)	5		
		なし	0			
事業中止による影響	既投資額の損失大	(5)	5	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅		
	既投資額の部分的損失	4				
	既投資額の損失が少ない	3				
計	20	18				
塾度	事業の進捗進捗状況					
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	(10)	10		
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
		未着手	0			
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	(10)	10		
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
未着手		0				
計	20	20				
合計			100	78		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	78	
	優先度が高い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		